

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2009年3月31日

96号

NPO法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

∞新年度新しい職員を加え∞

デイサービスの体制強化！



桜の予想も足踏み状態で、震える寒さの中での桜祭り。自然が相手になると、なかなか人の思い通りには行かないもの...とはいえここ数日はようやく日中の暖かさの中で、花も開き、春をうたいあげています。

恒例となったグループホームの地域交流バザーにも良い気候となり、今日は手づくり食品の準備に忙しい家族会の人たちの会話もはずんでいます。

* * *

そんな中、新年度へ向けて、私たちを取り巻く周辺は、あわただしく動いています。人事で言えば、団体の役員から、役所の人事移動まで。学校の職員の移動を伝える新聞記事を見て、「〇〇先生が校長になられた！」などと...。やはり4月は人から始まるのかなとも思います。

また、いろいろな事業となると、新規のもの以外は、途切れない継続の上に立っての新しい取り組みがはじまります。私たちにとっては、これまでの活動がどう“継続して”理解していただけるのかは、大変な関心事です。

ご説明し、来て障害者たちにも会っていただき...と。役所などの担当者が変わっても、これまで理解していただいた内容がきちんと後任者に引き継がれている事を願うばかりです。

* * *

さて、デイサービスの活動ホーム「しもだ」でも、4月から養護学校を卒業したばかりのメンバーが2名入所します。また職員は、昨年の秋からこの春までに5名採用されました。新卒の1名を除き、いずれも他の職場を経験した人たちです。

いわゆる福祉系の学校では、在学中からそれなりの心得と雰囲気の中で学び（あるいは学ばされ）障害福祉の現場に就職してくるので、どこか腰の据わったおっとりとしたよさがあります。一方、他の職場から転職してこの道を選んだ人には、また別の良さがあります。社会通念が必ずしも全て良いとはいえませんが、経験の中で積み上げたものが活かされれば、他の社会を知らない障害者たちにとってもプラスになることでしょう。願わくばこの両者が良いハーモニーを奏で、明るい職場になって欲しいものです。

『支える会』 21年度の主な活動計画

4月4日	新吉田町・グループホームよつばホーム地域交流バザーの集い (提供品の販売、軽食、その他)
5月	総会・事業報告、決算報告 活動ホームしもだ地域交流バザーに参加(実行スタッフ、出店)
6月22～27	啓発事業「写真展」、於：大倉山ギャラリーかれん
7月	見学会
9月	学習会
10月	活動ホームしもだ秋まつりに参加・出店
11月	学習会
2月	研修会・総会

* 毎週月曜日は 家族会の活動日(手づくり、ミニ学習会、デイサービス家族会)
* 毎月末 啓発・広報紙「たわわ」の発行配布 回覧



メール



Yさんへ

櫻井 徹

今年もたくさんのスケジュールがYさんを待ちかまえていることでしょう。あまり自分を酷使しないでくださいね。

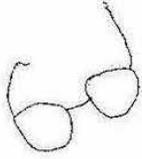
Yさんといえども、全てを投げ出したら、どんなに楽かと思ったりする事もあるでしょう。総理大臣でさえ投げ出す世の中ですからね。だからといってそんな無責任なことは出来ませんよね。たとえ出来たとしても、後悔だけが残ってしまう事が分っているから、やっぱり頑張ろうと思ひ直すんですよね。(違ったらゴメンね)

前にNHK教育テレビの番組で障害のある人たちが自分たちを番組で取り上げる時に「明るく元気な頑張り屋さん」という人間像をいつも期待されることが、たまに苦しくなると発言していました。

きっとYさんも同じ気持ちではないかと思いました。悩んでいるのはYさんだけではないという事を覚えておいて下さいね。

昨年の暮れに「しもだ」でお会いした時に見せていただいた、Yさんのお話を聞いた児童たちの感想文を見て、私はとても驚き感動しました。それは子供たちのところにYさんの伝えたいと思っているメッセージが正確に伝わっている事にでした。多くの言葉を駆使しても自分の気持ちが相手に伝わらない事の多い生活を送っている、私からすると、それはまさに驚きでした。とても価値のある仕事だと思います。これからも機会があったらぜひ小学校へ行って子供たちに会ってあげて下さいね。

(障害者のYさんへ 励ましをこめて)



めがねの声

■自分ひとりの力でできる事は少ないので...

友だちからのメールに、桜が咲きそうだと書いてありました。

私は、一番春が好きです。外が明るく気持ちよいので、ひとりでの身体か外に出たいと思うのです。

この前、障害者のボランティアを長年している方たちを表彰する“感謝の集い”のパーティーがありました。私はいつも参加しますが、そこで先輩の障害者たちに出会って話す楽しみがあります。今年は、いつも会う方などが参加していなかったので少し寂しかったです。

* * *

今年は、青年クラブのEさんが表彰されましたので、私も参加しました。

私にとっても、青年クラブだけでなく、一緒に出かけたり、生活の体験でもボランティアで支えてくださったり、今もいろいろ心配して下さる人です。

こんな時いつも私は、何か私の心のこもった物をプレゼント出来たらと思うのですが、手が不自由なのでなかなか思うようになりません。いつも誰かに何かプレゼントしたい時は、私の手織りでテーブルセンターにしたものですから、「何かもっと役に立つ物を作って上げられたらナ...」とずっと思っていました。

私の相談に乗って下さる友だちが、手芸の上手なお友だちを紹介して下さいだったので、今度は、織物で小さなバッグを作って欲しいとたのみました。思ったとおりのポーチを作っただけで、織物だけよりもずっと素敵でした。Eさんもとても喜んで下さいました。私も嬉しかったです。

こうしたいと思ってもなかなか出来なかった事が、思い切ってお手伝いしていただいたことで、出来てよかったなと思います。

これからは、全部自分で出来なくても、いろいろ出来ない事は、出来る人にたのんでみようと思います。自分の力だけでできる事は、ほんとに少ないのですから...

大原友子

この一冊を!

1981年の黒船

—— J D と 障害者運動の四半世紀 ——

花田春兆著 <現代書館>

国際障害者年（1981年）の前夜から障害者権利条約（2006年）まで、激動の時代の障害者運動・障害者文化をつづる貴重な本。著者花田氏は、俳人としても活躍する重度の脳性麻痺者。当事者として日本障害者協議会（JD）の障害者運動にも関わってこられた内側からの歴史に、多くを教えられ共感させられた。巻末にある『推進協及びJDの主な活動と国内外における障害者施策の動き』もまた力作です。

今月のよつばホーム

よつばホーム

ようやく春めいてきた今日この頃・・・。入居者のみんなも春を肌で感じています。

3月は年度末で何かと忙しい時期でもありますが、スポーツ観戦が好きな勢津子さんにとっても、今月はとても忙しかったようです。

まずはWBC連覇を成し遂げた『侍ジャパン』の応援です。日本ラウンドからテレビ観戦できるときは、ずっと応援していました。

韓国との決勝も、しもだからの帰宅後、開口一番「野球どうだった？」と聞いて、日本が勝ったと知ってとても喜んでいました。

そして東京マラソンに、春のセンバツ高校野球。高校野球は慶応が負けて残念そうでしたが、毎試合結果を楽しみにしています。

さらに大相撲3月場所に、フィギュアスケートにと、スポーツ好きな勢津子さんにとって、ハラハラドキドキの3月だったようです。ゞ(〃^▽^)/

* * *

先日、以前アルバイトで勤務していた加藤水希ちゃんがよつばホームに遊びにきてくれました。今は実家の山形でOLがんばっているそうです。

おみやげに『さっちゃん』と言うお菓子いただきました。このお菓子を見つけたときに、いつかおみやげに持って行きたいと、ずっと思っていたそうです。ゞ(≧▽≦)。

第2よつばホーム

早いもので桜が咲く時期になりました。

3月19日に富岡章子さんがしもだ外出プログラムで、エプソン品川アクアスタジオに行ってきた。

とっても楽しみにしていた水族館だったので、綺麗なお魚やイルカのショーを楽しんできました。

充実した一日をすごして、お魚以上に瞳を輝かせて帰宅し、マッタリ水族館の余韻を楽しんでいました♪

他の入居者のみんなもそれぞれの時間を楽しんでいます。

山田さんが和室でゆっくり過ごしているなか、横で阿部さんはジノジノしながら周りのスタッフに愛想をふりまっています。(*▽*)エへ

友子さんは自分の部屋で音楽を聴いたり、スタッフとお喋りしたりとそれぞれの時間を楽しんでいます。

桜が咲く時期は別れもあり、ちょっと寂しいですが出会いの時期でもあります。みんなこれからの出会いを思いながら過ごしています。

